

田中耕太郎教授・二村克行准教授 退職記念特集に寄せて

社会福祉学部長 草平 武志

この度、山口県立大学社会福祉学部紀要第22号の刊行の運びとなりました。本書のために、原稿をお寄せいただいた先生方、ならびに編集の労をとっていただいた編集委員の先生方に心から感謝申し上げます。

今年度退職される田中耕太郎教授は、20年間の厚生官僚としてキャリアを積まれた後、1995（平成7）年、創設2年目の本学部へ赴任された。地方都市である山口の地において日独の社会保障に関する研究を一貫して続けられ、多くの業績を残されている。学生への教育の面においては、抽象的な思考を得意としない学生に向けて丁寧語りかける姿は印象的であった。永年、版を重ねておられる『はじめての社会保障』における“やさしくかたわらで語りかけるような”文章には、先生の教育への思いがにじみ出ていると思える。この間、社会福祉学科主任と社会福祉学部を務められ、広い視野と卓越した判断力で学部運営に尽力されたことも周知のことである。

二村克行准教授は、1993（平成5）年4月に、社会福祉学部の創設の準備にあわせて本学へ赴任された。本学部における社会福祉教育の骨格を創る中心的な役割を担われた。家族福祉論を担当され、今日の家族を取り巻く諸課題を語りかける内容の授業は学生に極めて印象の深いものとなっていた。先生の本学での教育研究の結実として、2015年には『家族と家族福祉』（梓書院）を刊行されている。

本学部の基盤を構築し、教育研究活動を進展させるという多大な功績を残された両先生方のご退職を記念し、学部紀要第22号を刊行できたことに重ねて感謝する。

本学は、関係機関の御尽力により、永年の希望であったキャンパス移転も軌道に乗り出し、栄養学科、共通教育棟建設の槌音がこだましている。この期に、社会福祉学部の教育研究の充実の決意を新たに、紀要第22号をお届けする。